

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム オータムハウス
所在地 (県・市町村名)	鳥取県鳥取市覚寺51-5
記入者名 (管理者)	尾崎 りつ子
記入日	平成 19 年 3 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

自己	外部	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者の人間としての尊厳を守り、家庭的で楽しく安心できる環境を提供しながら、生きる喜びと自信の持てる暮らしを支援するために、見やすい場所に理念を掲げ、介護に当たっている。スタッフ一人ひとりは、入居者に対して自由で生きがいの持てる環境を作り、家族とのきづなを大切に、個人を尊重したあたたかいケアを提供できるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	“ゆっくり”、“一緒に”、“楽しんで”を大切にしている介護に取り組んでいる。 スタッフによって実践するに当たってのとらえ方にまとまりのない一面もある。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	見やすい位置に理念を掲げている。 広報誌を地域に回覧したり、運営推進会議の開催、家族との会話などで、利用者が地域で暮らせることの良さを積極的に伝えている。		
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	毎日の食品等の買い物を近くのスーパーまで歩いて行く時や近所を散歩する時などに挨拶をしている。なじみの店員などの交流を良い機会と受け止め、育むようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元幼稚園の来訪を受け、交流の場を定期的に行っている。幼稚園への訪問も一回行えた。 近隣のグループホームでの催しに招待され出かけたり、広報誌を利用者がスタッフと共に届ける。 地元子ども会の訪問を受け、獅子舞を披露してもらった。地区の敬老会に参加している。選挙の時は、投票に出かけている。		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
6		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現場のケアスタッフが直接地域の高齢者に関わることは少ないが、広報誌を発行することで認知症や介護に関する情報を地域に発信している。</p> <p>デイサービスを実施し、近隣のニーズに答えている。</p>	○	<p>デイサービスの利用者はまだ少ない。さらにグループホームとして何ができるのか検討していきたい。</p>
7	4	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の実施にあたり、また評価後の振り返りを行うことを会議などを利用し、スタッフ間に周知している。</p>		
8	5	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を行っている。</p> <p>会議を開くことで地域の方や家族などとの話し合い、意見交換する機会が増えた。</p> <p>今後もサービスの向上へ会議を活かしていくよう努めている。</p>		
9	6	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>施設長が医療部門の業務と兼務しているため、市担当者と話し合う機会は多く持っている。</p>		
10		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に成年後見制度を利用している方が2名おられる。保佐人や家裁の担当者等関係者よりの情報は職員間で共有するように努めている。実際に利用中の方が居られることで現実に即した学習の機会となっている。</p>		
11		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>開放的な施設作りに努めている。</p> <p>法人内でコンプライアンス制度が発足し、直接施設内で報告しづらい場合でも相談しやすい体制になっている。</p>		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しては、管理者が利用者や家族と面談し重要事項説明書を基に十分な説明をし、じっくりと疑問点などを話し合った上で契約をさせていただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の発言や様子の変化から心境を把握し、認知症の利用者の心情や意見を汲み取って介護に活かすようにしている。 ご意見箱を設置している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回は手紙の形式で利用者の様子が具体的にわかるように家族へ報告し、相談する姿勢を大切にしている。手紙の発送時は請求書と1ヵ月分の小遣い銭の明細・レシートを同封し金銭の管理も明確にしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理システムを設置を毎月の家族への手紙で伝えている。 意見を運営に反映させている。 ご意見箱を設置している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアスタッフ会議を月一度実施して意見や提案を出し合っている。運営者、管理者は普段から職員の要望や意見を聞くように心掛けているが充分把握しきれていなかったり、要望どおり実現できないこともある。	○	日頃から意見や提案を聞く機会が設けられていると職員側からも話しやすく、まとまりのある運営になるのではないかと。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診時や散髪などで家族の付き添いが困難な時は、日勤スタッフを増やすなどで柔軟な対応をするために勤務を調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が保たれるよう、心配りをしている。異動の時期をずらすなど工夫し、一度に顔ぶれが変わらないようにしている。異動の際は入居者へのケアを心がけている。		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出張として県や市、グループホーム協会などが主催する研修に参加している。 公休日を利用しての自主的な研修への参加がある。 資格取得のための相談をしている。 研修参加や学習の機会が全体として少ない。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループ協会入会し、研修会や事例検討会などに参加、学習の機会とすると共に同業者同士の情報交換の場として いる。県グループホーム協会主催の相互研修に毎年参加し、実際に他事業者のグループホームを体験する機会を持っている。	○	外部の同業者や法人内のスタッフとの交流をさらに増やしたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に一度、個人面談で話す機会がある。 もう少し、気軽に話をできる場面があってもよい。気づきにくい現場の様子を理解し、スタッフとの距離が近づくことでより良い職場環境が実現できる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に一度、振り返りにて自分の努力を伝える評価制度がある。 もう少し現場での状況を把握されることでスタッフ個々の心がけや働きぶりに触れられ、正しい評価へとつながり、スタッフ個々への向上心へつながっていくのではないかと。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に施設見学と共に面談を行い、様子を聞き取る機会を持っている。 必要に応じてデイサービスやショートステイを体験していただき、本人と直接話したり、関わりを持つことで信頼確保とニーズの把握に努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に施設見学と共に面談を行い、様子を聞き取る機会を持っている。 担当スタッフ以外のスタッフも家族とのコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の機会を持ち、意向に沿った対応となるよう努めている。必要ならグループホームでのデイサービスやショートステイの利用、またソーシャルワーカーを通して在宅で利用できるサービスの相談・助言を実施している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、事前に施設見学を受け入れ、サービス内容についても本人、家族に充分説明している。可能ならばお茶の時間を共に過ごしたり、デイサービスやショートステイも利用していただくなど柔軟に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を主体に活動を行っている。“ゆっくり”、“一緒に”、“楽しんで”を心がけている。毎日の一階の掃除は、スタッフも含め全員が分担して実施している。「手伝ってあげようか」と自然に利用者が台所にやってくる関係作りをしている。毎日の買出しも利用者と共に出かけ、男性利用者にはカート押しをするなど自然に役割が決まっている。餅つきや節分など昔ながらの行事の時は、利用者によってスタッフが教えられる場面も多い。普段の生活の中で利用者やスタッフの間で頼ったり頼られたりと支えあっている。	○	“ゆっくり”、“一緒に”、“楽しんで”を心がけていることを新任スタッフへ伝達しよりまとまったチームケアを行いたい。その方らしい活動(習字、編み物、裁縫など)をスタッフが学べる場を作りたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	相談しあいながらより良いケアを共に検討している。洗濯物干しや工作、野菜の下ごしらえなどの日常活動にもご家族が気軽に参加していただいている。可能な限り、受診の付き添いは家族にいただき、本人の病状を家族が身近に感じられるように支援している。恒例のクリスマス会は、料理や飾りつけなどをスタッフだけがするのではなく、家族も参加し全員の手作りで開催している。		
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の間にスタッフが入ることにより、双方にとって良好な関係を作るよう努めている。いつでも面会を受け入れ、宿泊も可能なように簡易ベッドや寝具の準備をしている。毎月の手紙や面会時の報告で本人の活動の様子を知っていただくようにしている。行事にも家族が気軽に参加していただけるように声をかけている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力し、墓参りやなじみの理髪店の利用、実家又は自宅訪問を随時実施している。地元の名所や旧跡など本人になじみのある場所を選んでドライブに行くなどを日常の活動としている。自宅の近所に住み長年付き合ひのあった方にファミリーサポートへ登録していただき、随時来訪、話し相手になっていただいている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間関係を把握し、和やかに過ごしていただけるよう配慮している。利用者同士の会話が弾むようさりげなく話題を振っている。		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
		○関係を断ち切らない取り組み			
32		サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内病院の医療スタッフやソーシャルワーカーと連携し、状態に応じたケアの提供に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人との会話や行動観察、家族などからの情報を基に本人本位の暮らし方の実現に取り組んでいる。何を望んでいるのか、何が必要か、スタッフ会議で皆で話し合い、実現できるように取り組んでいる。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント表を利用し、本人や家族等からの情報を蓄積するようにしている。センター方式については、まだ勉強中の点が多く、完全には活用できていないシートもある。	○	時間をかけて利用者の情報を集め、少しでもその方らしい生活の場の提供を目指したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの現状の把握に努め、共に暮らす中で支援することに努めている。記録などで1日の流れを把握するように努めている。	○	スタッフの視点を統一し、ケアの統一につなげたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当スタッフを決め、中心になって介護計画を作成している。各担当は、普段から本人・家族の意見や希望、他スタッフの意見やアイデアを把握するように努めている。会議の席でも1か月の振り返り時に互いに提案をしている。3ヶ月に1回、変化のある時は随時、家族・本人と管理者・計画作成担当者が面談し、希望に沿った介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	転倒などによる体調の変化や退院後など通常と異なる対応が必要な時は、話し合いを基に緊急時ケアプランを作成している。その他、必要に応じて介護計画の見直しをしている。	○	現状に即した見直しができるように、まず計画を確実に実行していきたい。

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
38		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>フォーカスチャータリングの様式を使用し、日々の記録をしている。記録のポイントとして、医療的なこと、人間関係に関すること、理解力に関すること、本人の性格が現れた言動、本人の要望、精神的なことに着目している。体調や実施したサービスが見やすいように一週間分の記録用紙も使用している。月1回のスタッフ会議の資料として1ヶ月の振り返りをまとめ、夜勤などで会議に参加できないスタッフにも回覧している。</p>	○	<p>まとまりのあるケアや工夫や見直しにつながる記録となるよう取り組んでいきたい。</p> <p>記録の簡素化、長々と書くのではなく簡単に的確な記録になるよう努力したい。</p> <p>ケアプランを定期的にスタッフ皆で見直せる場を作りたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービスを実施し、在宅の認知症高齢者へ認知症に対応した環境や活動を提供している。</p> <p>デイの利用者はまだ少ないが入浴サービスも行ない、在宅で介護を続ける家族の助けになっている。</p> <p>ショートステイサービスも申請済みだが、居室の空きがないため現在のところ利用は無い。ショートステイはグループホームへ無理なく入居するための試用期間として考えている。</p> <p>勤務体制上、スタッフの負担が感じられる面がある。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ファミリーサポートの方に話し相手になっていただいたり、ボランティアの方に行事で楽器演奏をしていただいたりと協力していただいている。消防訓練に消防署に協力していただいている。</p>	○	<p>地域資源とのむすびつきについて改めて学びたい。</p> <p>ボランティアなどさらに積極的に取り入れていきたい。</p>
41		<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>歩行機能を維持するため、週二回デイケアセンターでリハビリを受けている方が一名いる。</p> <p>外部のサービス事業者を利用して介護用ベッドや歩行器をレンタル利用しておられる。</p>		
42		<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>実際に成年後見制度を利用している方が2名おられる。しかし直接、地域包括支援センターと共同して実施している活動は現在のところ無い。</p>		
43	18	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医は指定しているが、どこを受診するかは本人や家族の希望を優先している。</p>		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
44		<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者全員の主治医が認知症に詳しい医師であり、電話でも相談できる体制にしている。 ご家族又はスタッフの付き添いで定期的に主治医の受診をしている。</p>	○	<p>定期的な受診だけでなく、主治医にさらに細かい状態を把握してもらうための関係作りを目指していきたい。</p>
45		<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>渡辺病院、ウェルフェアの外来看護師、また非常勤の看護師に体調に関する相談を行ない、医師との連携をとりやすくしている。また、病状によっては近隣の開業医の看護師にも相談をしている。</p>		
46		<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中はスタッフや可能ならば親しくしていた利用者も面会に出掛けることがある。主治医等医療スタッフ、家族とソーシャルワーカーと管理者や担当スタッフが退院の可能性を話し合っている。</p>		
47	19	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>可能な限り主治医を受診する時は、ご家族が付き添っていただけるようにしている。同時に施設側から本人の心身の状態を主治医やご家族に文書や口頭で伝えるようにしている。 ご家族の希望を伺い、主治医に伝える仲立ちをスタッフがこなしている。</p>	○	<p>短期間の入院に対応できる柔軟な体制作りに取り組みたい。</p>
48		<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>法人全体で利用者のケアを行なうという方針を決めている。普段から主治医に本人の心身の情報を伝え、ソーシャルワーカーもスタッフ会議に参加して、チームで一人一人の変化を把握するようにしている。 個別のケースでは入院するのか施設入居を続けるのかの判断に家族やスタッフが悩み迷う場合もあった。</p>		
49		<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院の為退去される場合が多いが、文書(サマリー)にて医療情報をまとめて伝えるほか、スタッフが直接出かけ、情報を伝えている。その際ケアプランやアセスメント表など伝えられる情報は手渡している。</p>	○	<p>本人が直接訴えることができなくなっても、グループホームの生活の中で蓄積した本人の思いや希望を移り住んだ先でも活用できるようにセンター方式のアセスメント用紙への記入をさらに充実させたい。</p>

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへ誘導の必要な方には、小さな声でさりげなく声掛けをするようにしている。 介助が多く必要な方の歯磨きは居室内の洗面所にて実施している。点眼や塗り薬などは他の利用者の見えないよう居室で行なっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員一人一人が声掛けの時は命令口調にならないように注意している。 納得し、安心した暮らしとなるよう対応に心がけている。 場面や力に合わせた自己決定を促している。		
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の時間の流れを大切にしている。朝昼晩の食事を生活のペースを作る基本にしている。 連携を深めるためにスタッフ間の話し合いがもっと必要。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所的美容院や理髪店を利用している。また歩行がやや困難な方にはバリアフリーの法人内病院の理容室も利用している。 また、ご家族の付き添いで長年利用してきた店に行かれる方や、ご家族の希望で福祉美容室の訪問を受けている方もいる。 長年スカート愛用している方には今も続けて着ていただいている。 好みの化粧品や整髪を個別に利用していただいている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の興味や力に合わせて調理、配膳、下膳、食器洗いなど各場面で必ず利用者に参加していただいている。 スタッフも同じテーブルで同じ物を食べ、季節の話題など会話を楽しみながら食べることを大切にしている。利用者の活躍の場として意識して対応している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーや紅茶を好まない方には、スーパーで好みの飲料を選んでいただきお茶の時間でも他の方と違うものを飲んでいただいている。	○	本人の好みに合わせて外食など施設外での楽しみももっと実現したい。

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツやパッドなどは一律に利用するのではなく、利用者の心身や経済の状態に合わせて随時検討、変更している。その方に合わせた時間誘導を行なっている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりと入浴を楽しめるよう支援している。流れ作業のような入浴にならないように配慮している。曜日は特に決めていない。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの活動量に配慮しつつ、よく様子観察し体調に合わせた休息をとっていただいている。就寝や起床時間を特に決めることはせず、本人の生活のペースに合わせている。朝昼晩の食事時間に合わせて自然に生活リズムが整っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や活躍できる場面を大切に暮らし作りに心がけている。得意な活動にできるだけ参加してもらう。三食共施設内で調理しているので、料理の得意な女性の方には積極的に参加していただいている。職員が助けられることも多く、感謝されることでやりがいを感じていただけているようだ。その一方でスタッフの働きかけがないために何もせずに過ごしてしまうこともある。	○	生活歴をよく知り、本人がしたいこと得意なことをもっとよく知り、支援していきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に相談した上で持てる方には、お金を持っていただいている。スタッフと買い物に行った際に好みの菓子などを自分の財布からお金を出して払っておられる方がいる。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、各種イベントや施設での催し、買い物などに公用車で出かけている。食材の買い物には、近くのスーパーへほぼ毎日利用者とスタッフが出かけている。ドライブが好きな方には日常の活動として市内の公園や名所に出かけ楽しんでいただいている。ホームセンターや大型スーパーなどへも買い物に出かけ日用品や個人で必要なものなどの買い物をしている。	○	外出の機会を多く持つためにスタッフの業務分担を円滑にするよう取り組みたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年11月に県外の実家へレンタカーでスタッフとボランティアの方の付き添いで出かけ、久しぶりに姉妹の対面をしていただくことができた。家族と共に年に1回は郊外へドライブ遠足を実施している。	○	ふるさと訪問などをもっと増やしていきたい。

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居間にピンク電話を設置し、自分で掛けられる方は自由に使用していただいている。遠方のご家族からの便りには、スタッフの付き添いでハガキなど購入し返事を書いていただいている。書ける方には、ご家族などへの年賀状を書いていただいている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者を快く受け入れている。 ゆったりと共に過ごせるよう気配りしている。	○	家族とのむすびつきが希薄になりつつある利用者については家族が来訪しやすいような支援を考えていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病状により医師から臥床安静の指示があった場合も夜間日中の巡視の回数を増やして安全を確保するなど身体拘束のないケアに努めている。転倒などの危険性がある方には、なるべく普段に近い生活を送っていただきその分見守りを徹底するなど配慮している。向精神薬に安易に頼るのではなく、主治医と相談しながら落ち着ける関わりを工夫している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯や事故防止上、施錠したほうが良い時間もあり、いつでも開放というわけではない。 しかし必要性を念頭におき、開錠に努めている。 外出しそうな様子の時は、無理に止めたりせずさりげなく声掛けをしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安心した暮らしを送れるよう、所在や様子の把握に努めている。利用者や居間で過ごしながら記録などを書き、さりげなく様子を把握している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の状態を把握して、必要に応じた管理に努めている。 火の元になる物は事前に持ち込まないように説明しているが、それ以外の物は利用者の力に合わせて対応し、家族にも協力をしていただいている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に努めつつ、日々の対応にあたっている。事故のきっかけになりそうな事柄は、スタッフ一人ひとりが気付いた時にこまめにハットヒヤリ報告書を作成している。同書は、上申するだけでなく、連絡ノートにコピーを貼り付けたり申し送りや会議で話し合うなどスタッフ全員への周知と予防を図っている。法人内病院での医療安全対策委員会に定期的に参加し、スタッフへ情報を提供している。		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に消防訓練を実施し、救急蘇生法の講習も行なっている。 マニュアルがあり、頭の中でシミュレーションしている。夜間は警備会社への連絡端末を携帯して巡視を行い、非常時に法人内病院のスタッフが応援に来るための手順を決めている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を定期的に行なっている。消防訓練では夜間火災が発生したとの想定で利用者も参加して避難訓練をしたり、火災報知器の操作、緊急時の連絡手順などを訓練している。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調の変化とそれに伴って起こりやすい事故などを予測して面会時や手紙などで家族に伝えるようにしている。実際に小さなケガや転倒などが起きた時も家族に電話で報告・相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	必ず記録に詳細を記述し、情報を共有している。 申し送りをおこなっている。 必要な時は連絡ノートにも記入し全職員が把握できるようにしている。 必要と判断した時や対応に迷った時は、協力医療機関のスタッフに相談している。	○	さらに医療機関との連携協力体制を強化していきたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬の説明書はいつでも参照できる場所に保管している。わからないことや迷うことがあれば、主治医や夜間ならば渡辺病院の当直医に相談している。 処方時には、報告書などを作成し医師に利用者の様子が伝わるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎食、野菜や果物を十分に摂るように献立を作成している。 主治医と相談しながら、体調に合わせて下剤をこまめに調整している。また、下剤服用の記録を残し、排便パターンの把握に努めている。 便秘傾向の方には、毎日ヨーグルトやヤクルトを飲んで頂いている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを実施している。 自立している方は自室で、また理解力の低下している方は段階ごとに声掛けするなど入居者ごとに対応を変えている。 認知症が進行して気が散りやすい方は、自室でスタッフが付き添い声掛けをしている。		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
77	28	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事中の水分が不十分な方には、それぞれの好みに合わせて飲物の種類(インスタント甘酒や低カロリーのドリンクなど)を工夫して提供している。</p> <p>水分摂取が少ない方へはチェック表を作成し一定の水分が確保できるようにしている。</p> <p>また、各個人の好みに応じた物をできるだけ提供している。</p>	○	<p>栄養士とさらに連携をとり、献立作りに活かしていきたい。</p>
78		<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外出後は、必ずうがい・石鹸手洗いを実施している。共用手洗い場とトイレのタオルは廃止し、ペーパータオルに切り替えた。</p> <p>法人内病院の医療感染対策委員会に出席し、感染症に関する情報を把握しスタッフに伝達している。</p> <p>感染症に関するマニュアルはいつでも見ることのできる場所に置いている。</p>		
79		<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>毎日、包丁やまな板はアルコールまたは塩素ハイターによる消毒を実施している。なま物のまな板は、専用のものを使用し使うたびに塩素ハイターを使用している。購入した生鮮品はなるべく1~2日で使い切り、古いものは速やかに廃棄している。弄便行動のある利用者もいるので清潔な環境を保つ努力を続けている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りに鉢植え等置き、入居者とスタッフとで手入れを行なっている。玄関内にはご家族の手芸作品や利用者の生け花などを飾っている。段差をなくし、安全に靴の着脱ができるようにイスを置いている。</p>		
81	29	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気作りを大切にしている。</p> <p>季節ごとのカレンダーや壁面等の飾りつけを実施している。</p> <p>入居者の奥さんが製作した造花を季節に合わせて飾っている。</p>		
82		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自由な動きを大切にしている。</p> <p>居間には、ソファやイス、マッサージチェア、畳ベンチなど多種類の座る場所を確保している。</p> <p>長い廊下には、休憩場所を兼ねてイスを所々に設置、入居者同士のおしゃべりの場所としている。</p>		

自己	外部	項目	取り組みの事実	(○印)	取り組んでいきたい内容
83	30	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ぬいぐるみ作りの講師をしておられた方の部屋にはかつての作品を自宅から移して飾っている。 家具製造販売をしていた方の部屋には、当時のイスや鏡台を設置している。 家族や本人の写真を飾っている。 和室になれた方には畳カーペットを使用している。 好みの本や昔のアルバムなどを部屋に置いている。		
84		<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	台所で換気扇を使用。掃除時など適宜窓を開けて換気している。 各居室のエアコンは気温や体調に合わせて調整している。 冬季は、インフルエンザ予防も兼ねて加湿器を居間に設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居間には手すりを設置している他、イスやテーブルを配置し伝い歩きがしやすくしている。 歩行器使用の方が合わせて居間の家具の間隔を広くしている。		
86		<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	居室内トイレに本人に分かりやすいように表示したり、ドアを開放しておくなどその方にあった表示をしている。		
87		<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	玄関の周辺にベンチやプランターを置いている。 花壇の植物に水遣りをしたり、剪定したり、植え付けを一緒に行なうなど活動につなげている。 利用者と共に、晴れた日はベランダに洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮らしの中で力を発揮していただける場面をつくり、スタッフも共にそのことを喜んだり、心配事を共に考えたりと、ここは暮らしの場であり、暮らしておられる方それぞれの暮らしがあることに目を向け、それを共に営む中で支えていけるように努めています。心の通い合う場面を大切にしています。近隣にスーパーマーケットなどの商店や開業医などの協力医療機関、美術館などの文化施設がある立地条件の良さを生かして積極的に利用者とスタッフは外出している。施設内だけにとどまらず、認知症になっても社会的なつながりを保てる生活を目指しています。